

予習を中心とした授業づくり

生徒が予習してくることを前提とした授業づくりをすると・・・
 生徒の学び方や、教師の授業の仕方に変化が出てきました。
 丹南中学校では、予習素材として「予習動画」を作成しています。
 「予習動画」を使っているので、「反転授業」形式の授業になることが多くあります。

反転授業とは？

教師は説明型の講義を動画として用意し(授業動画)、それを生徒が宿題として家庭などで閲覧する。学校での授業時間は、生徒たちが予習で得た知識を応用して問題を解いたり議論を行ったりする。

導入のパターン

毎時間予習動画を見る 数学で実施

生徒は、授業内容の概要をあらかじめ知っている。講義の時間を短縮でき、「教え合い」「演習」「実習」などの時間が十分に確保できる。また、学習の振り返りも余裕をもってできる。

単元の前(後)で予習動画を見る 英語・数学で実施

- 単元の導入部分や英語の文法事項など、学習内容を理解する上で基礎となる部分をはじめに学んでおく。
- 単元の内容を学んでから、練習問題や課題学習をするときに活用する。多様な考え方を引き出しやすい。

学習内容に応じて適時予習動画を見る 国語・社会・理科・音楽・美術 保健体育・技術家庭で実施

- 理科の実験、技術・家庭科の実習など、実験や実技をする前に、知識や手順の説明に時間がかかる授業に活用。実験や実技の時間が十分に確保できる。
- 生徒の理解が難しいと考えられる学習内容のときに活用。生徒の理解が深くなる。また、演習などで定着をはかる時間的な余裕が生まれる。

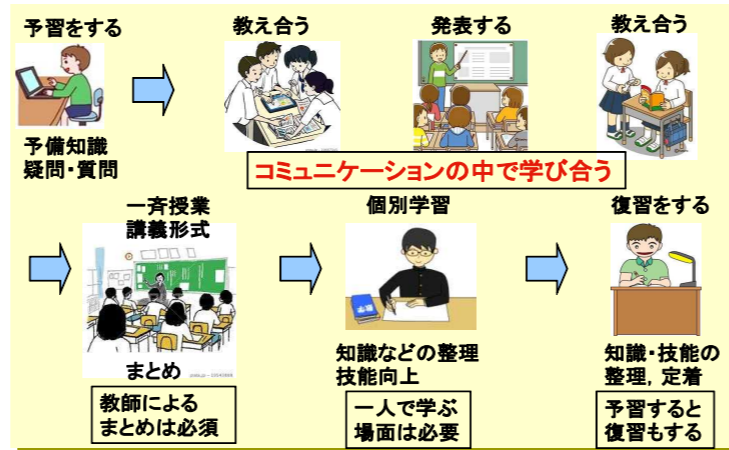
実験・実習では効果的!



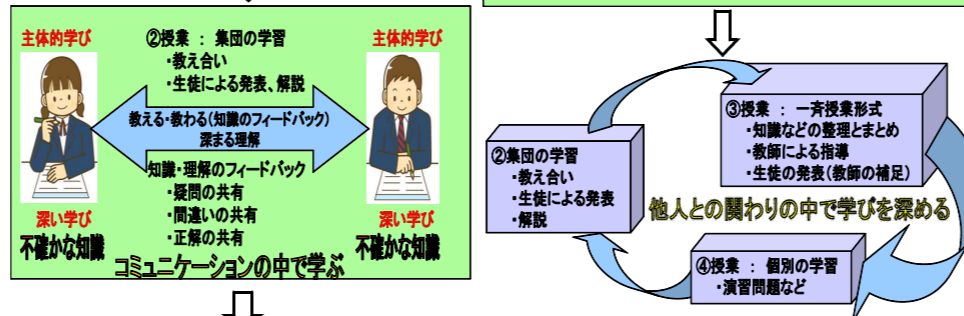
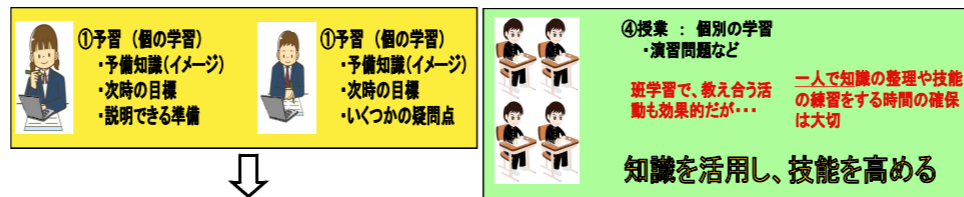
時間の確保に有効



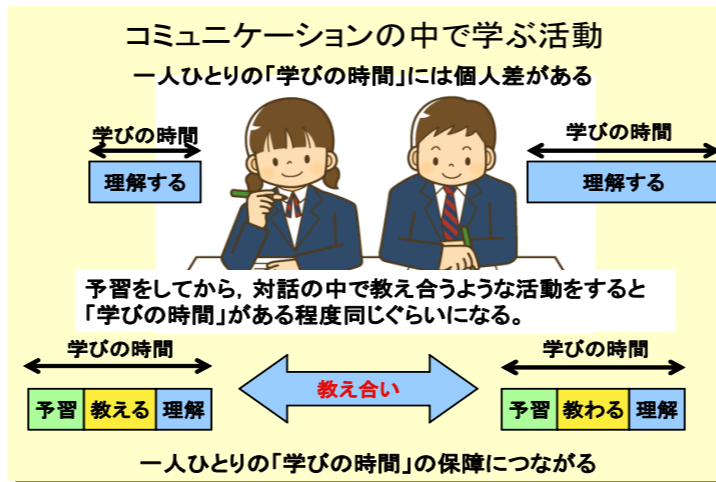
授業イメージ



- 予習したことに価値がある授業展開
- 講義型の授業からの脱却
- 予習したことを披露する場面の設定



授業のねらい 授業内に、全生徒が完全に納得できる授業展開をめざして!

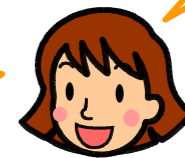


- 予習の成果を披露する場(教え合い)を設定することで、短時間でほとんどの生徒が「なるほど!」と納得できるようになった。
- 授業が効率的になったので、演習問題で再確認、定着をはかる時間もたっぷり取れるようになった。

成果として(生徒感想より)

予備知識がある、疑問点があることによる効果

次の授業の内容が分かっているから、授業で分かりやすくなった。

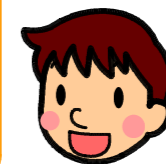


予習していたので、分からなかったところに集中して話を聞いた。

予習をしたことで、余裕をもって授業が聞けた。

対話的学び、コミュニケーションの中で学ぶ効果

先生が生徒に教えるだけではなく、生徒が生徒に教える方法もしてきたので、教わる方も教える方も学習内容が身につけていると思います。

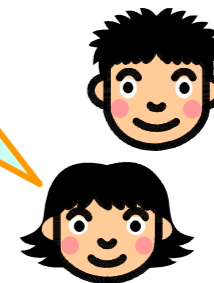


友達の説明は何を言っているのか分からないときもあるけど、先生がなめらかに説明するよりもよく理解できる。

新しいことを、先生に、一方的に教わるのはつまらないと思うようになってきた。新しいことは、最初に自分で予習して、分かること、分からないことを区別してから、授業を聞いた方がおもしろいし、授業内容もよく分かる。予習するようになってから、授業が楽しみになっている。

予習動画の他の活用

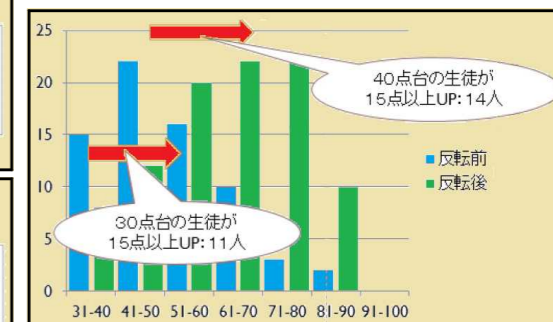
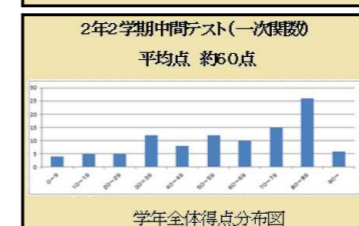
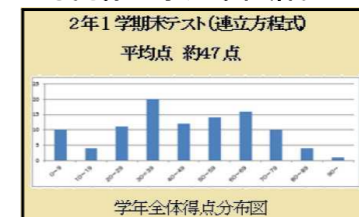
テスト前に、復習として動画を見ている。復習として、まとめてみるとよく分かる。



授業で分からなかったところを、動画を見て復習している。

成果として(定期テストより)

下のグラフは数学と理科の1学期末テストと2学期中間テストを比べたものである。テストの内容も平均点も違うので、単純に比較できないが、数学では学年の得点分布が高得点の方に集まっている。また、理科でも同様に学力中位層および下位層の生徒に著しい伸びが見られる。



数学の比較

理科の比較

動画作成について

①予習動画の長さ

- ・1分半～2分程度の長さ
- ・予習として、2～3本の動画を見る

②予習動画作成上のポイント

- ・欠けている部分、説明不十分な部分を作っておく
⇒「気になる部分」を演出する。
- 「ここを知りたい(分かった)」→学習目標
- 学習意欲→主体的学び

③予習動画の活用

- ・授業中のプレゼン資料として活用
- ・復習動画として活用
- ・特別支援学級生、不登校生徒、日本語を母語としない生徒に活用

丹南中学校では、「予習動画」を自作しています。慣れるまでは、作成に時間がかかりますが、最近は手早く作れるようになりました。

☆ explain-everything を使って作成

ビデオの流し撮りに近い形で作れます。手早くできて、本校では主流の作り方です。

☆ パワーポイントを使って作成

手間がかかります。ある程度高いスキルも必要です。細かく作り込むことができるので完成度が高くなります。二次使用、三次使用のときに自分の授業手法に合わせて細かく変更できる点が良いです。

○ 「予習動画」を自作すると多忙になる？

もちろん忙しくなります。丹南中学校でも、動画のストックができるまではかなり大変でした。しかし、今では、すでにある動画を二次使用することで教材研究は短時間で質の高いものになりました。また、新しく動画を作るときにも、すでにあるものを参考につくるので、短時間で質の高い動画が作れています。

○ 本当に生徒は予習してくるの？

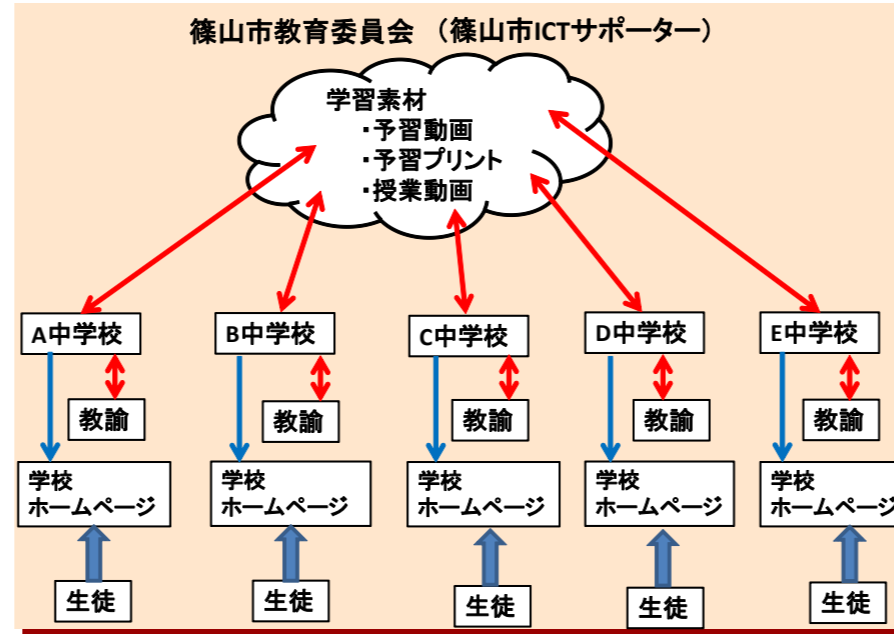
予習してきたことに価値のある授業づくりをすれば、ほとんどの生徒が予習します。生徒が頑張って予習したのに、教師がいつも通りの「講義型授業」をすれば、生徒は「予習しても、しなくても同じだ」と感じます。教師が授業スタイルを変えない限り、授業は成功しません。

○ 生徒の学び方は変わるの？

大きく変わった生徒は、「先生が一方向的に教え込む授業はつまらない」と感じるようになります。生徒の活動がたくさんある授業の方がいいようです。「授業の内容があらかじめ分かっているので、授業中の話がよく分かる」という感想が多くあります。また、「予習動画」を「復習動画」として活用する生徒も増えてきます。しっかり「予習」する生徒ほど、「復習」もたくさんする傾向が強いです。生徒が主体的に学ぶようになる、生徒の表現力が高まる、基礎学力が充実するという成果が見えてきました。

これらの成果を引き出すコツは、教師自身の授業スタイルを変えていくことです。

篠山市全体の計画について



上図のように、篠山市内の5中学校で、「予習動画」などを共有し、活用できるように計画しています。

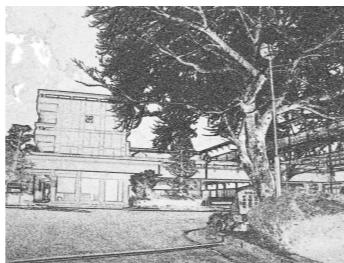
「予習動画」を活用して、予習を中心とした授業展開をするためには、「動画」が必要です。しかし、動画を手軽につくることは、やはり大変です。そこで、篠山市では、「予習動画」などの学習素材を共有し、これを活用できるようにシステムを整備しました。

動画のアーカイブ化



教材の共有化を目指して

対話的な学びから、主体的な学習へ

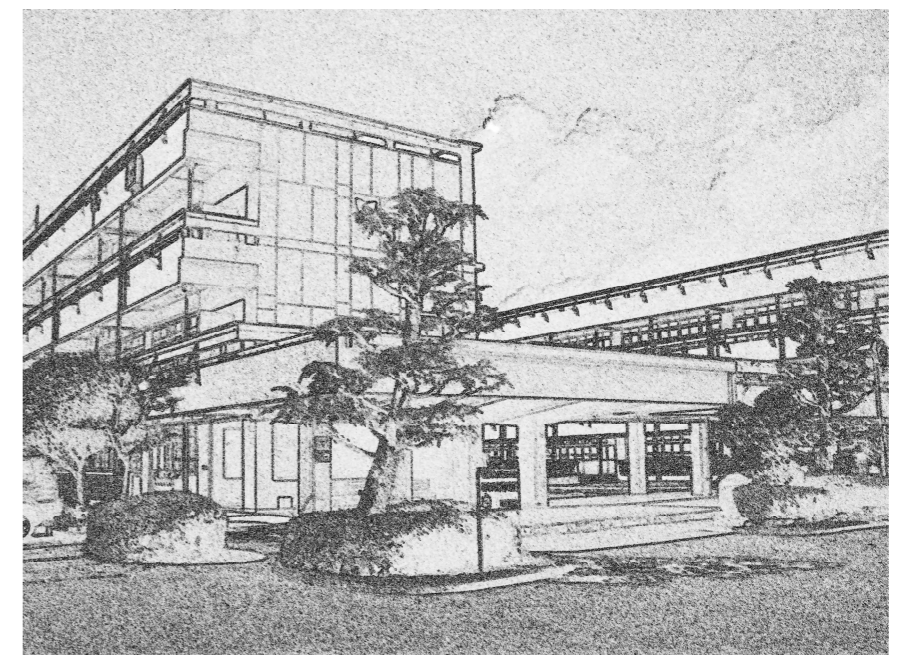
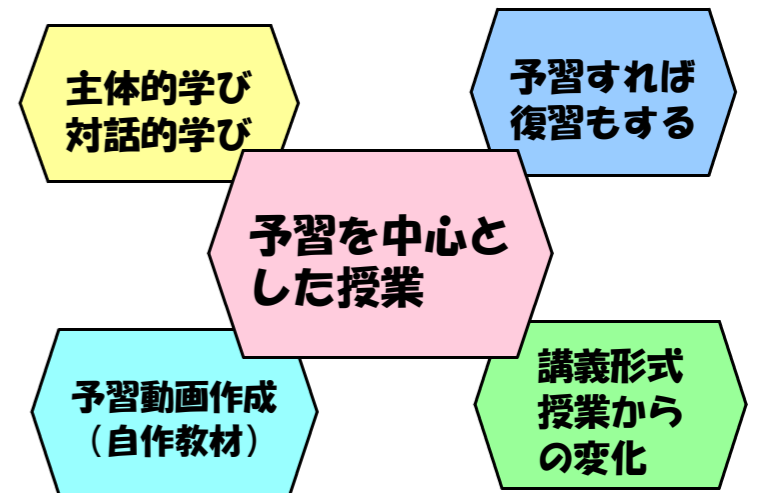


平成29年度 篠山市教育委員会指定事業研究

平成28年度・29年度パナソニック教育財団特別研究指定校

篠山市立丹南中学校研究発表会
平成29年11月16日

教えてもらう学びから、自ら求め探っていく学びへの転換
～教え込む授業から、気づかせ、支援する授業の創造～



篠山市立丹南中学校